

## 第2章

# 流山市の情勢

2-1 地理的条件 .....	8
2-2 まちの形成 .....	9
2-3 人口の動向 .....	12

## 2-1 地理的条件

本市は、都心から25km圏内、千葉県北西部に位置し、つくばエクスプレスの利用により、秋葉原へ最短で20分の至近な距離にあり、面積は、約35.3km<sup>2</sup>、東西約8km、南北約10kmで、東は旧小金牧の台地を境に柏市、西は江戸川を隔てて埼玉県、南は坂川を境に松戸市、北は利根運河を境に野田市に接しています。(図2-1)

地勢は、下総台地の西端の台地部(標高15~20m)と江戸川や坂川、富士川の流域の低地部(標高5~6m)から形成されており、台地部には奥深くまで谷津と呼ばれる浸食された低地部が入り込んだ複雑な地形となっています。

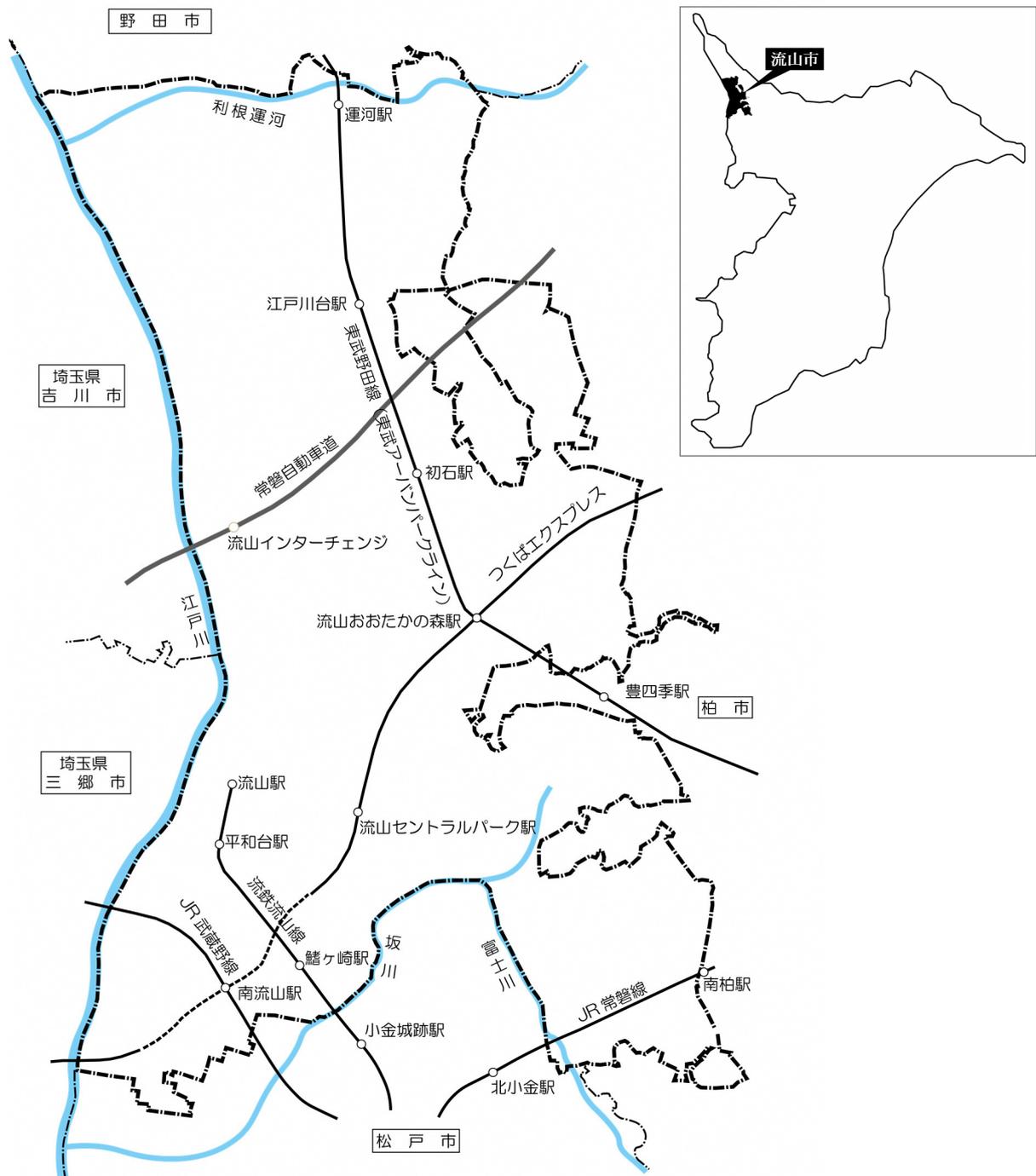


図2-1 流山市の地理

## 2-2 まちの形成

本市は、西に江戸川、北に利根運河が流れ、江戸時代から水運の拠点として栄え、江戸川沿いの街道筋にはまち並みが形成されました。

江戸時代には、新田開発が進み、そこで収穫された良質な米を原料として開発された白みりんの醸造業等が隆盛し、今の地場産業の基礎を作りました。

しかし、輸送の主流が水運から鉄道に移行したことに伴い、水運業で栄えたまちは昔の活気を失っていきました。

高度経済成長期になると、市民が利用するJR常磐線、東武野田線(東武アーバンパークライン)、流鉄流山線及びJR武蔵野線の4路線の各駅を中心に市街地が形成されました。

さらに、平成17(2005)年、首都圏新都市鉄道つくばエクスプレス(以下「つくばエクスプレス」という。)の開業により、鉄道駅を中心としたまちづくりが進行し、新たな市街地が形成されています。

つくばエクスプレス沿線の土地区画整理事業に伴い、当該地域の市街化区域<sup>※</sup>への編入及び用途地域等の変更が行われました。(図2-2、2-3)



流山おおたかの森駅南口都市広場の様子(令和元年)

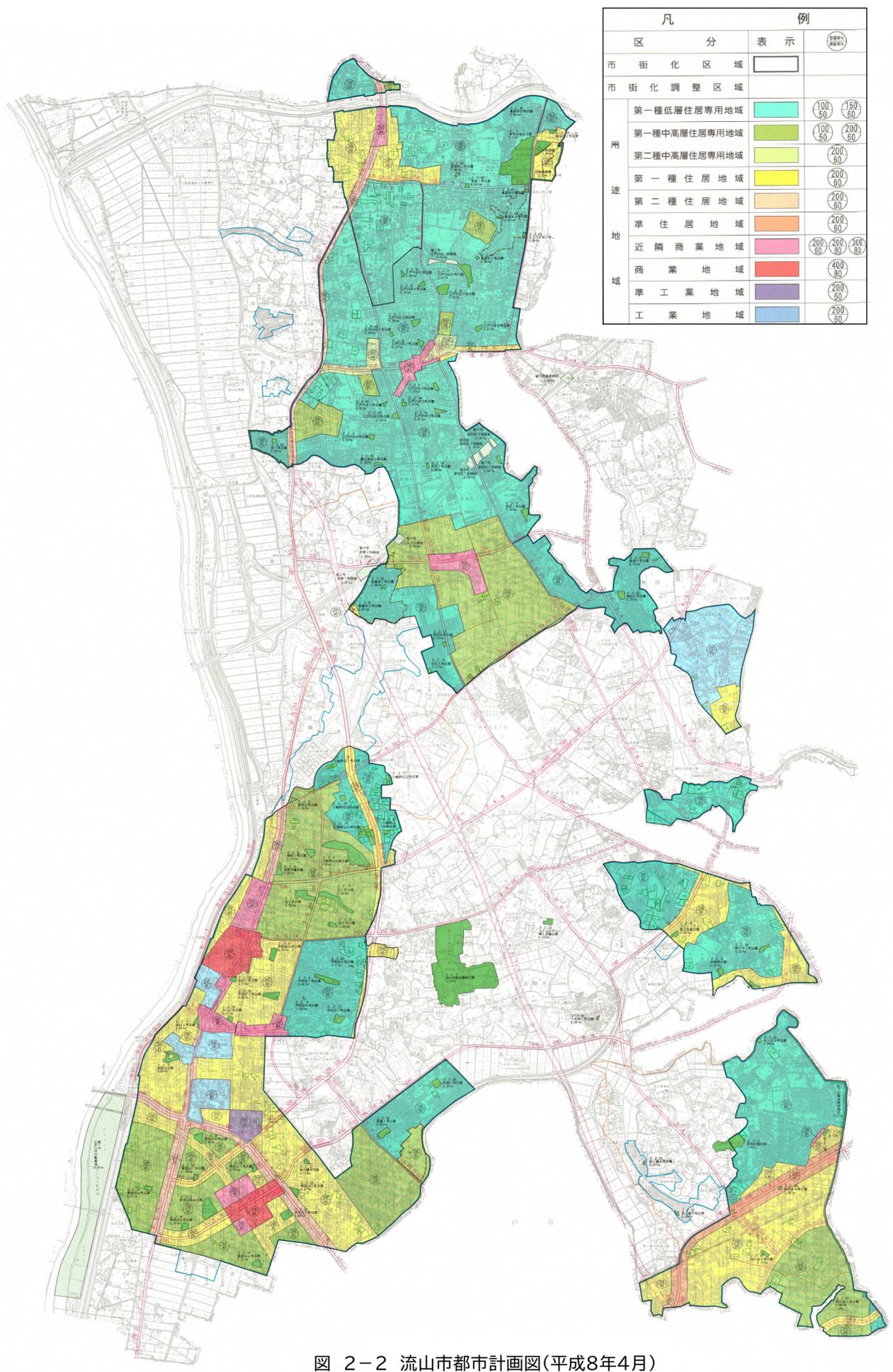


図 2-2 流山市都市計画図(平成8年4月)

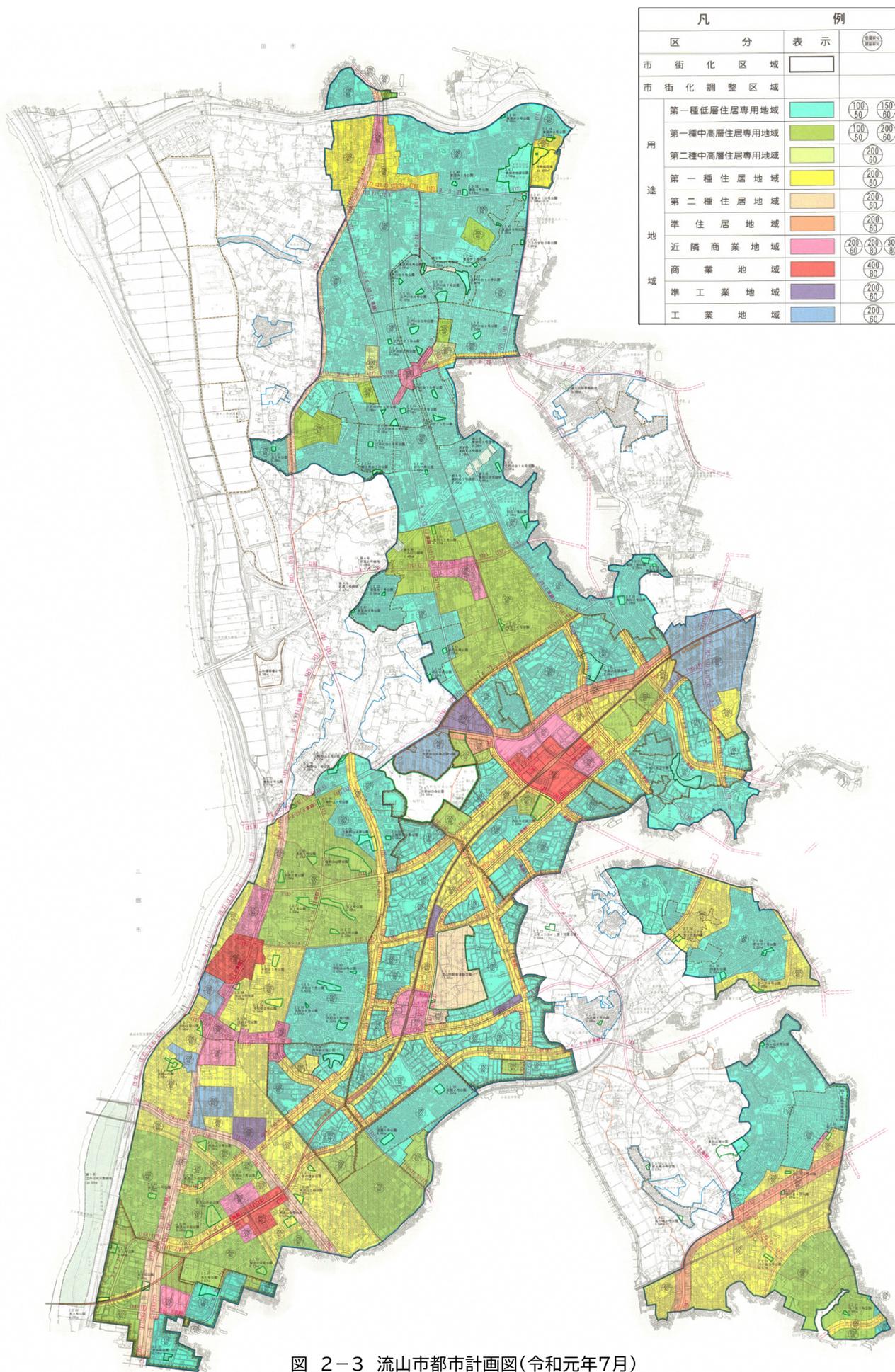


図 2-3 流山市都市計画図(令和元年7月)

## 2-3 人口の動向

### (1) 人口及び世帯数の推移

本市は、昭和40年代から50年代にかけて急激に人口が伸びましたが、平成に入り微増にとどまっています。しかし、平成17年のつくばエクスプレスの開業及び当該沿線整備による新しいまちづくりにより、人口は再び増加し、平成17年に15.1万人であった人口は、平成31年には19.2万人に達しています(図2-4)。また、全国的には少子高齢化が進展している中、合計特殊出生率も全国平均や千葉県平均を大きく上回っています。(図2-5)

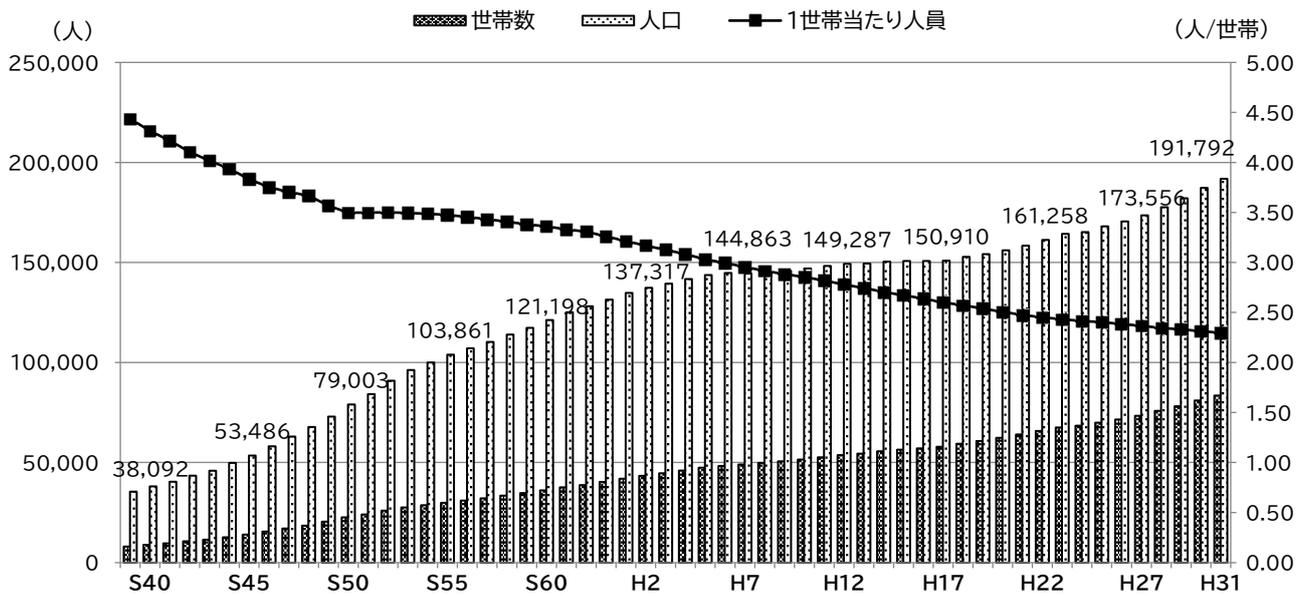


図2-4 本市の人口・世帯数等の推移【参照：住民基本台帳(各年4月1日現在)】

※平成25年4月以降、外国人登録人口は住民基本台帳に含まれます。

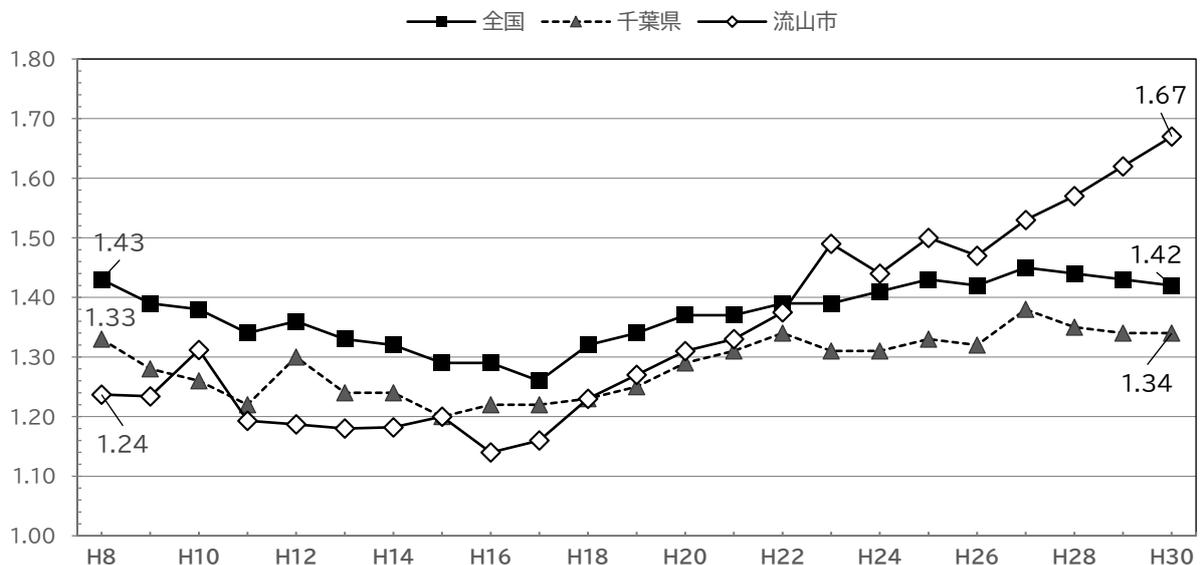


図2-5 合計特殊出生率【参照：千葉県 合計特殊出生率】

## (2) 地域別人口推移

地域別(図2-6)の人口推移(図2-7)をみると、つくばエクスプレスの開業の影響が顕著であり、流山おおたかの森駅を有する中部地域は、平成17年の約3万人から平成31年には約4.9万人と1.9万人増加、南流山駅を有する南部地域は約4.7万人から約6.6万人と1.9万人増加しています。

一方、東部地域は流山セントラルパーク駅があるものの緩やかな増加、北部地域は微減傾向を示しています。年齢別人口では、中部、南部地域は30～40歳前半を中心に、乳幼児や小学校低学年が多く、子育て世代が急増している状況が伺えます。(図2-8)



図2-6 地域区分

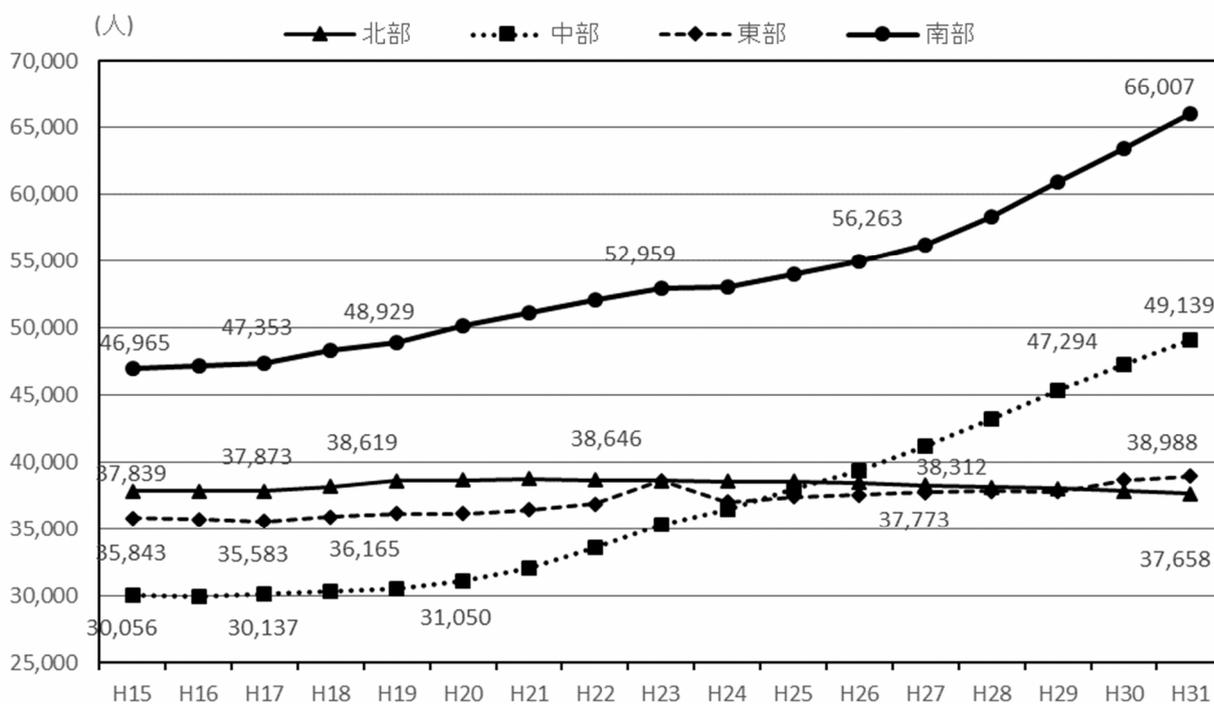


図2-7 地域別人口推移【参照:住民基本台帳(各年4月1日)】

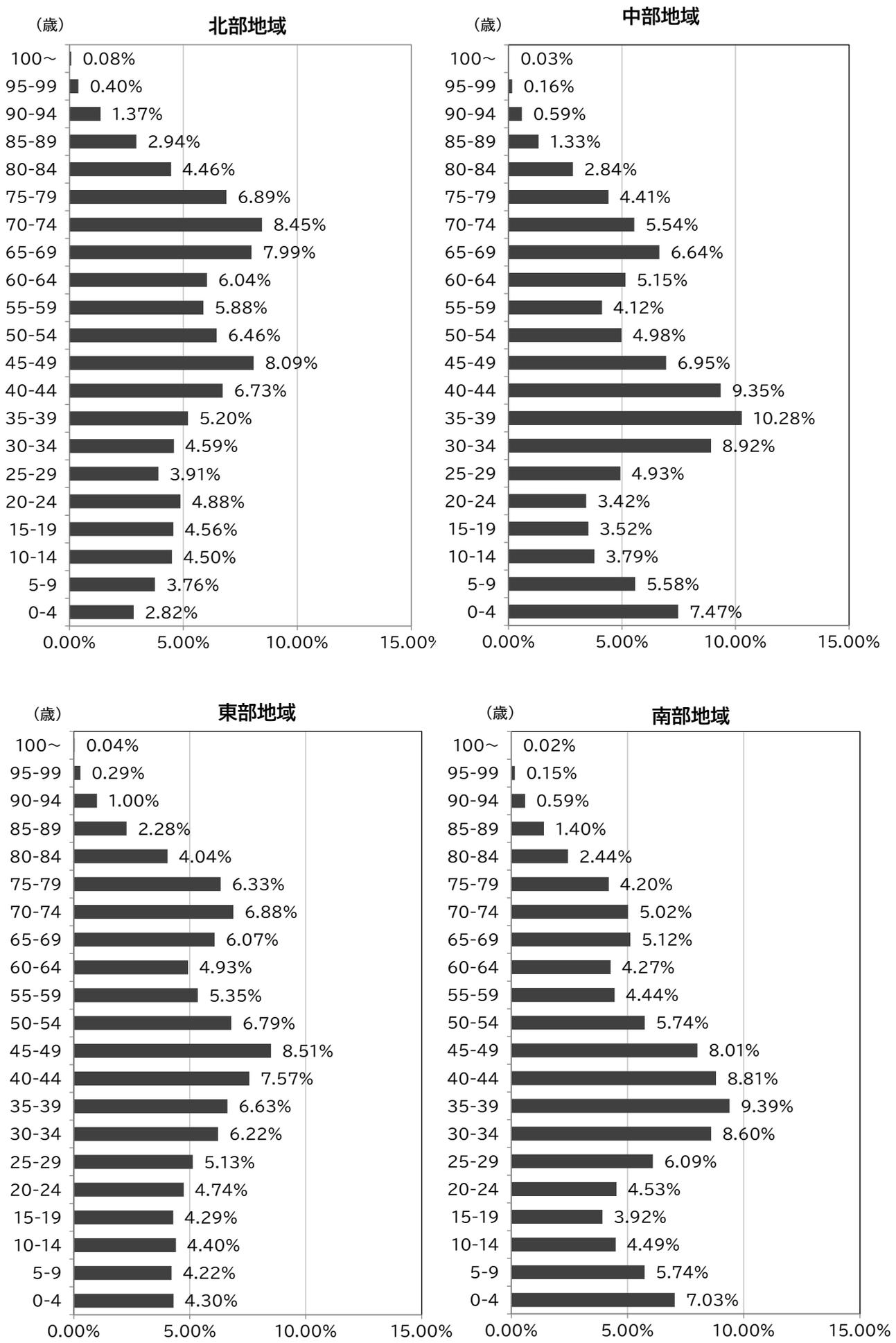


図2-8 地域別年齢人口【参照:住民基本台帳(平成31年4月1日)】

### (3) 市の転入・転出人口

平成17(2005)年のつくばエクスプレス開業以降は、年により若干の差異があるものの、いずれの年も転入超過(転入が転出を上回る)の状況にあります。(図2-9)

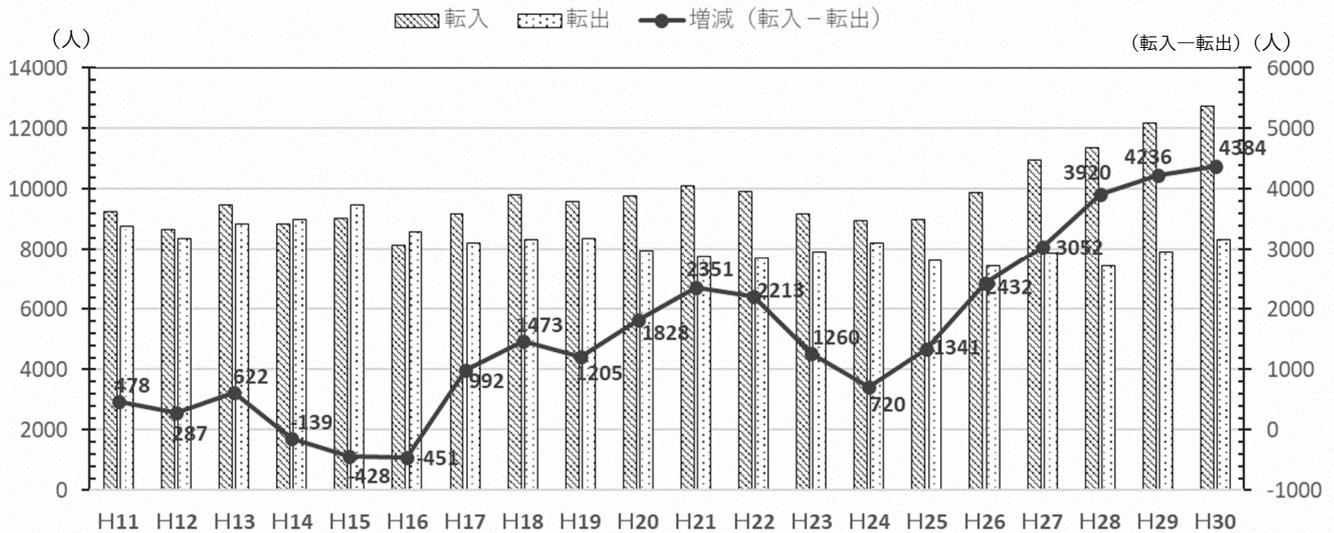


図2-9 市の転入・転出人口【参照:流山市統計書】

### (4) 将来人口推計

平成30年3月に策定した「次期総合計画における将来人口推計」によると、低位推計・中位推計・高位推計ともに、近い将来、人口は20万人を突破し、令和9(2027)年をピークに緩やかに減少していきます。本計画においては中位推計を採用し、本計画期間内は20万人を維持するものと推計されています。(図2-10)

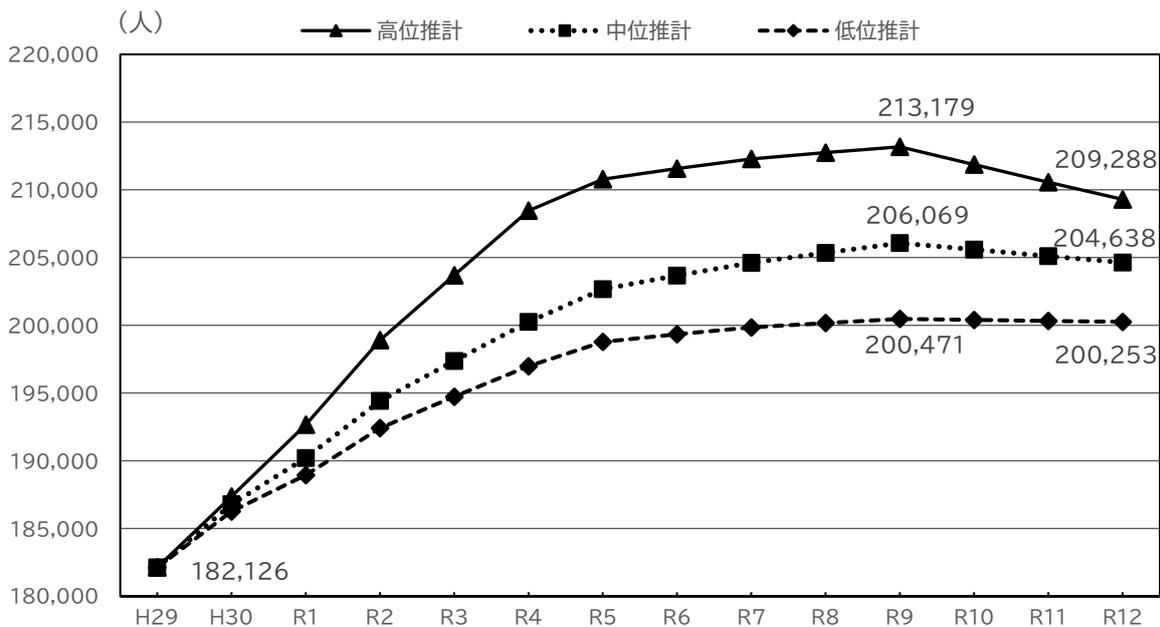


図2-10 流山市の将来人口推計の結果【参照:流山市総合計画調査報告書】

年齢3区分別人口(中位推計)をみると、0～14歳の年少人口と、担税力の高い15～64歳の生産年齢人口は、減少する年がみられるものの、引き続き高い水準で推移します。

一方、65歳以上の老年人口は増加傾向にあり、令和11(2029)年には51,205人に上り、総人口の4分の1を占めると予測されています。(図2-11)

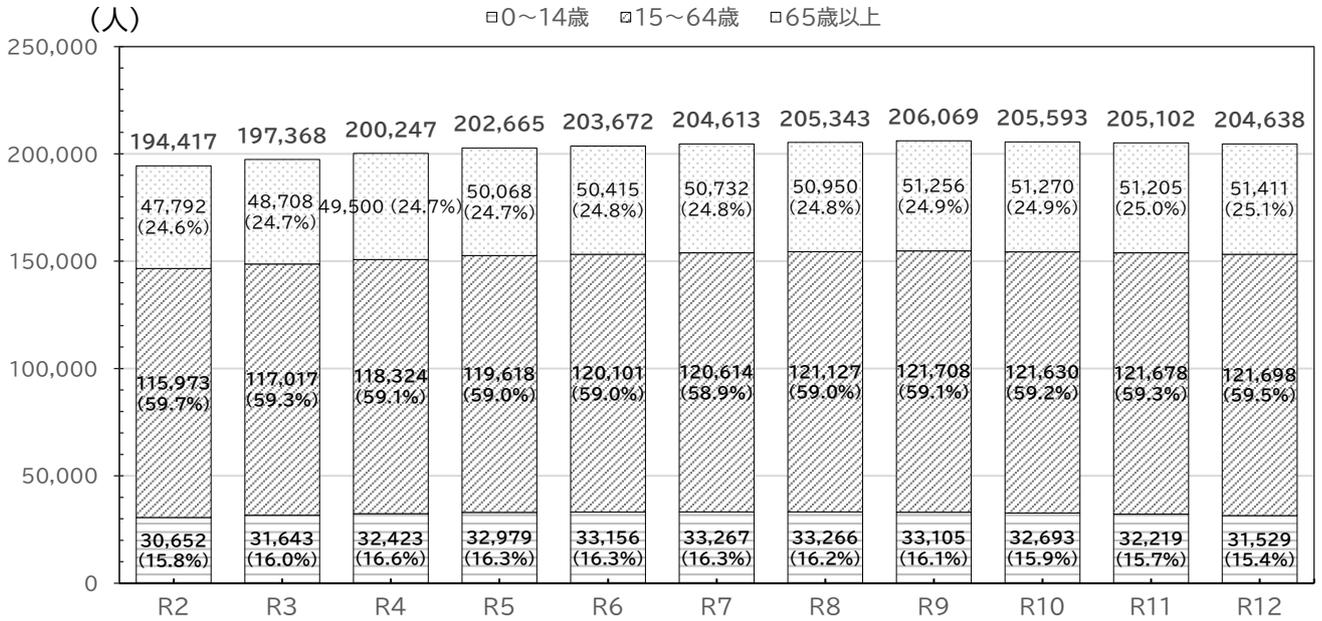


図2-11 将来人口・年齢3区分別人口(中位推計)【参照：流山市総合計画調査報告書】